

## ～ 第1章 ～ 各種計画の策定・改定

環境先進都市をめざす区では、基本構想「杉並区 21 世紀ビジョン」の環境分野における実現を図るため、「杉並区環境基本計画」を 7 年ぶりに全面改定するとともに、自治体として地球温暖化防止に相応の寄与をするため、「杉並区地域省エネルギービジョン」を策定しました。

また、清掃・リサイクル事業においては、循環型社会への転換を目指し、循環型社会形成推進基本法をはじめ一連の廃棄物・リサイクル関連法が整備されるなど、ごみの発生抑制やリサイクルに対する社会的要請が強まり、これら清掃事業を取り巻く環境の変化に対応するため、「杉並区一般廃棄物処理基本計画」を改定しました。

### 1 杉並区環境基本計画

#### 1 背景

平成 8 年 2 月に策定された杉並区環境基本計画は、環境行政の基本的・総合的計画として東京 23 区の中でも早い時期に策定された計画でした。しかし、その後、国内外、また杉並区の環境を取り巻く状況は大きく変化し、地球温暖化の影響や有害化学物質による環境汚染などが一層明らかになってきました。

これらの変化に対応し、区では新しい環境基本計画を策定することとしました。

#### 2 概要

本計画では、20 世紀の経済社会活動による「負の遺産」を将来世代に残さないように、みどりを取り戻し、いきいきとした生活ができる環境を創りあげていくことをめざしています。その実現に向けて、各目標を定めるとともに、その目標を可能な限り数値化し、達成時期を明らかにするとともに、「4 つの挑戦」と「5 つの基本目標」を掲げ、区民・事業者・区行政のそれぞれが自らの責任において環境を守り、回復し、創造するための取り組みを示しました。

#### 4 つの挑戦

- 1 二酸化炭素の排出量について、2010 年度までに 1990 年度比で 2% の削減を目指します
- 2 1 人 1 日あたりのごみ排出量を東京都で最少にし、さらに平成 13 年度比で 40% 削減をめざします
- 3 私たちは、まず杉並から「有害化学物質」を減らしていきます
- 4 善福寺川、神田川沿いのみどりを中心に、杉並区をみどりの道でつなぎます

#### 5 つの基本目標

- 持続的発展が可能なまちをつくる
- 健康と暮らしの安全を守るまちをつくる
- 自然環境が保全され、さまざまな生き物が生息できるまちをつくる
- 魅力ある快適なまちなみをつくる
- 区民、事業者、区がともに環境を考え、行動するまちをつくる

## 2 杉並区一般廃棄物処理基本計画

### 1 背景

「杉並区一般廃棄物処理基本計画」は、清掃事業が東京都から 23 特別区に移管された前年度の平成 12 年 2 月に策定されました。

本計画は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律により、基本構想に即したものでなければならぬため、平成 15 年 3 月、区では杉並区清掃審議会からの答申「一般廃棄物処理基本計画の見直しについて」を踏まえ、新しい計画を策定しました。

また、区の環境行政の基本的・総合的計画であり、本計画の上位計画といえる「杉並区環境基本計画」との連携や整合を図った計画としました。

### 2 概要

計画は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 6 条第 1 項に基づき、区の清掃・リサイクル事業の指針として策定するものです。

計画の期間は、平成 15 年度を初年度として、平成 29 年度までの向こう 15 か年で、10 年後以降の処理施設計画を含めた長期計画と、そこに至る 10 年間の中・短期計画となっています。計画は概ね 5 年ごとに改定するものとし、社会・経済情勢の大きな変化や国・都における方針の変更など、計画の前提となる諸条件に大きな変動があった場合には、見直しを行うこととしました。

また、計画は、ごみ処理基本計画と生活排水処理基本計画の 2 つの計画で、ごみ処理基本計画は、計画改定の背景から計画スケジュールまでの 5 章で構成されています。

新しく策定した計画では、「区民 1 人 1 日あたりのごみ量を 10 年後に 40% 削減」などという数値目標を掲げるとともに、不燃ごみの積替え施設である杉並中継所を「10 年後を目標に不要なものとする」ことを重点目標として位置づけました。

#### 計画目標

環境に配慮した生活行動を実践していく社会

#### 数値目標

| 指 標         | 現状（平成 13 年度）                     | 10 年後の平成 24 年度                   | 減量目標      |
|-------------|----------------------------------|----------------------------------|-----------|
| 1 総排出量      | 年 189,187 トン                     | 年 170,269 トン                     | 現状の 10% 減 |
| 2 家庭系のごみ排出量 | 区民 1 人 1 日あたり 715 ㌔ <sup>㍑</sup> | 区民 1 人 1 日あたり 429 ㌔ <sup>㍑</sup> | 現状の 40% 減 |
| 3 事業系のごみ排出量 | 年 20,735 トン                      | 年 18,661 トン                      | 現状の 10% 減 |
| 4 最終処分（埋立）量 | 年 39,910 トン                      | 年 18,000 トン                      | 現状の 55% 減 |

## 3 杉並区地域省エネルギービジョン

### 1 背景

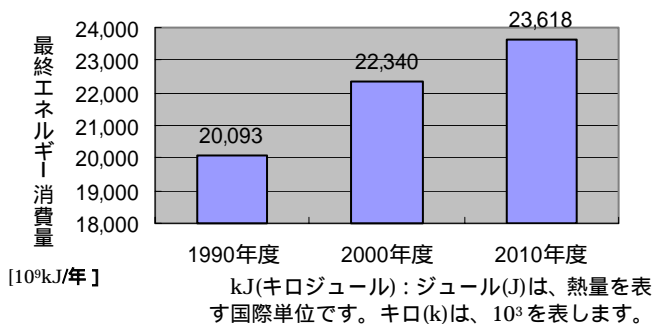
地球温暖化問題に対応し、杉並区の地域として、省エネルギー・省資源及び二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)削減のための施策を総合的に推進していくための指針として、「杉並区地域省エネルギービジョン(杉並区における省エネルギー推進のための指針)」を策定しました。

### 2 概要

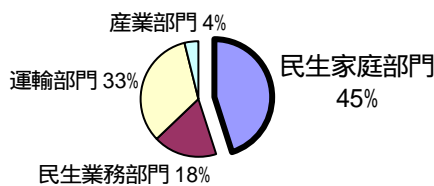
各種調査により、区の地域特性、エネルギー消費実態及び将来見通しを把握したうえで、省エネルギー推進に向けた考え方・各種施策について、行動計画として取りまとめました。行動計画では、基本方針に基づき施策の方向性を重点計画及び分野別対策として整理するとともに、省エネルギー可能量の算定を行い、省エネルギー目標とCO<sub>2</sub>削減可能量を設定しました。

#### 杉並区のエネルギー消費実態等

##### 【杉並区のエネルギー消費量の推移と将来予測】



##### 【杉並区の部門別エネルギー消費量内訳(2000年度現在)】



#### エネルギー消費量の現状と予測

区内全体のエネルギー消費量は一貫して増加しており、2000年度現在で1990年度に比べ11%増加、今後さらなる省エネルギーを行わなかった場合、2010年度には1990年度に比べ18%増加すると予想されます。

#### 部門別エネルギー消費量の特徴

杉並区の部門別エネルギー消費の構成をみると、全国平均に比べて、産業部門の割合が非常に小さく、民生家庭・民生業務部門の割合が大きい点が特徴です。

##### 【参考】全国平均の部門別構成(1998年度)

|      |     |
|------|-----|
| 産業   | 47% |
| 民生家庭 | 14% |
| 民生業務 | 13% |
| 運輸   | 26% |

#### 【重点計画】

- 民生家庭・民生業務部門の省エネルギー推進に重点的に取り組みます
- 区民・NPO・事業者の活動を支援し、省エネルギーのネットワークづくりを推進します
- 区が率先して省エネルギーに取り組みます
- 省エネルギー型の交通体系の整備を推進します

#### 【杉並区の省エネルギー目標】

2010年度のエネルギー消費量を1990年度レベルに安定化させることを目標とします。(エネルギー消費量を、2010年度までに、2000年度現在から11%削減する。)

## ～ 第2章 ～ 環境配慮行動の推進

地球温暖化の影響や有害化学物質による環境汚染などが一層明らかになり、ごみ問題も大きな課題となっています。このように、現代の環境問題の中には、社会経済システムに内在し、解決に向けて私たち一人ひとりに役割と責任があるものが多く、「環境に配慮した行動」が一層求められています。

区がめざす「環境先進都市」も、区民、事業者、区が、日常から環境に関心を持ち、環境に配慮した行動が、自然にとれるようなまちであると考えます。

### 1 「環境博覧会すぎなみ」の開催

21世紀を環境への負荷の少ない、持続的発展が可能な社会とするために、区民・事業者・行政が共に環境を考え、環境配慮行動を実践するための契機として、平成13年度より「環境博覧会すぎなみ」を開催しています。

特に、地球温暖化防止をはじめとした地球環境問題への取り組みは、国際的な連携が不可欠であり、国家レベルでの対応もなされていますが、具体的な取り組みの多くがなされているのは地域や職場、家庭であり、その意味において、住民に最も身近な都市レベルでの対話・交流も極めて重要であると考えます。



そこで、昨年の環境博覧会においては、環境課題に先進的な取り組みをされている国内及び国外の代表都市の参加を得て、「国際環境フォーラム」を開催しました。1日目に行なわれたパート1では、「一人ひとりが主役の環境先進都市を目指して」をテーマに、各都市の貴重な経験、先進事例の紹介をまじえながら、住民・事業者・行政のパートナーシップについて考え、2日目のパート2では、身近な問題である「ごみの減量とリサイクル」にテーマを絞り、パートナーシップをキーワードに、来場者を含めたディスカッションを行ない、環境課題の解決策を探りました。

二日間にわたるフォーラムでは、環境課題の解決には「行動の継続」こそが重要であり、そのためには、住民・事業者・行政の「協働」が不可欠であるとの認識を、フォーラム参加者と来場者の間で共有することができました。

- 参加都市 -

アムステルフェーン市（オランダ） / カールスルーエ市（ドイツ）  
日野市（東京都） / ニツ井町（秋田県） / 杉並区（東京都）

### 2 環境学習の実施

自動車公害や地球温暖化問題など今日の環境問題に対処するには、区民一人ひとりが環境に配慮した行動をとることが何よりも必要であり、「一人ひとりが、環境とのかかわりについて理解と認識を深め、環境に配慮した行動がとれるようになること」を目的とする環境学習が果たす役割は非常に大きくなっています。

そこで、平成13年度には東京都の「環境学習人材支援事業」のモデルとして、東京都環境学習リーダーの支援、協力を得て、「杉並区環境学習講座」を実施しました。

平成14年度には、地域に根ざした環境学習をさらに推進し、持続可能な社会づくりに主体的に関わる人材育成を図るため、13年度の環境学習修了者が中心となり、企画・運営委員としてコーディネートした講座を実施しました。

今後、環境学習が地域に根ざしたものとなり、

地域住民が、地域のすばらしさ、課題を理解した上で、地域の将来像を描き、地域づくりに主体的に参画していくことが重要です。そのためには、今回のように修了者が区内の各地域で広く活躍できるように、継続的な環境指導者の育成を目指します。

**平成13年度修了者**

**29名**

**平成14年度修了者**

**16名**



#### <平成14年度学習カリキュラム>

| 回 | テーマ                            | 内容   |
|---|--------------------------------|--|
| 1 | 開講式<br>オリエンテーション<br>グループ研究の班分け | 区の環境問題についての話しを聞き、受講生同士やスタッフとのコミュニケーションを図ります。 |
| 2 | 合意形成実習                         | 環境学習プログラムの作り方を学びます。                          |
| 3 | 生命と環境<br>講演とワークショップ            | 「生命と環境の関係」から出発して、環境問題の本質を講義とワークショップで考えていきます。 |
| 4 | ごみとリサイクルは今<br>講演とワークショップ       | 正しいごみの分別方法等を通じて、ごみとリサイクルについて学びます。            |
| 5 | 飲み水はどこから、排水はどこへ（神田川ウォッチング）     | 講義とウォッチングを通じて、水の循環について考えます。                  |
| 6 | 地球温暖化とヒートアイランド                 | 地球温暖化と大都市におけるヒートアイランド現象のメカニズムを学びます。          |
| 7 | グループ研究のまとめ・発表<br>閉講式           | 自主研究の発表を行います。<br>修了証を授与します。                  |

## 3 「すぎなみ環境カエルくらぶ」の誕生

これまで区では、環境問題を訴え、様々な環境配慮行動の取り組みを提案し、条例の制定やパンフレットの作成、ポスター掲示、環境家計簿の頒布等、あらゆる機会を通じて区民に呼びかけをしてきましたが、たばこのポイ捨て禁止やごみの分別など、環境美化の取り組み一つをとっていても、地域への定着は見られませんでした。



また、様々な環境団体も環境配慮行動への取り組みを行ってきましたが、団体の構成員の活動にとどまり、広く区民を巻き込んだものにはなりませんでした。

平成14年6月から、環境団体の代表や区民と、環境配慮行動を拡充するための組織のあり方、その推進活動のあり方について議論を重ねてきました。そういった中で、「広範な地域住民の環境配慮行動を呼び起こし、地域に定着させていくためには、区民自らが主体となって、楽しく取り組める行動プランを策定し、環境配慮行動への参加を働きかけることが何よりも大切である」という結論に至りました。

そこで、区民が主体となって運営する「すぎなみ環境カエルくらぶ」が誕生しました。同会は、環境配慮行動を「敷居が低く、奥行きが広い」魅力的なものにする企画を考え、行動することを第一の目的として活動しています。

### 平成14年度の主な事業活動

#### 環境チェックシートの作成、配布

子どもからお年寄りまで、誰もが気軽に取り組めるチェックシートを作成しました。環境博覧会や誕生記念イベント等で配布し、環境配慮行動の継続的な取り組みを呼びかけました。

#### 「すぎなみ環境カエルくらぶホームページ」の開設

情報の発信・収集基地としてホームページを設置しました。会の活動をリアルタイムで会員を始め、広く区民等に周知することで、活動への参加を呼びかけています。また、区民の情報提供による杉並の自然・定点観測や他の団体が行う環境関連イベントをニュースで提供することで、区民に楽しみながらできる環境配慮行動の情報提供を行っています。

#### きれいにカエル隊

定期的に路上のごみを拾い、街をきれいにする行動をとることによって、ゴミを捨てないでほしいというアピールや啓蒙を意図し、環境配慮行動の定着を目指しています。

#### 4 マイバッグ運動

マイバッグ運動は、平成13年度から区の実施計画事業として始まりました。

ごみの減量及びリサイクルの推進に向けた取組みの一環と位置付け、区民、事業者と一体となって、マイバッグの普及を図ることにより、過剰包装の抑制、レジ袋などのプラスチック系不燃ごみの減量化を図り、区民のごみ減量や使い捨てをやめ環境負荷の少ないゼロエミッション型社会を目指しています。そのため、製作教室、コンテストの開催等を通じ、意識啓発及びマイバッグの普及を推進しています。

##### 杉並区マイバッグ推進連絡会

区内高校・大学、各種団体の参加を得て、マイバッグの普及促進に向けた意見交流・情報交換を行っています。

また、その連絡会の活動の一つとしてマイバッグキャンペーンポスターを作成し、区掲示板及び町会掲示板、商店会等に掲出しています。

##### <杉並戦隊イレンジャー>

テレビ番組の正義のヒーローをもじった「杉並戦隊イレンジャー」は、杉並区マイバッグ推進連絡会がマイバッグ推進PRのためにポスター、広報ビデオのイメージキャラクターとして発案したものです。

イレンジャーの活躍を通してごみを減量し、環境にやさしい生活のためにできることについて問題提起し、マイバッグ推進のメッセージを発信しています。

##### マイバッグ製作教室

ごみ減量のためにマイバッグ（買い物袋）を日々の暮らしの中に取り入れてもらうため、清掃事務所の協力により、不燃ごみとして排出された傘の布地からバッグを作る製作教室を実施しています。

##### マイバッグコンテスト

区民から寄せられた作品を環境博覧会で展示し、広く区民の目に触れる機会を設けることにより、日々の生活にマイバッグ（買い物袋）を取り入れてもらうことを目的に実施しています。

##### マイバッグキャンペーン

ごみの減量に向けてマイバッグの普及啓発を図るため、関係各課と連携し杉並区マイバッグ推進連絡会・区民及び事業者との協働により、「阿佐谷七夕まつり」などで広く区民への啓発活動を行っています。

